

広報大洲

きらめき創造 大洲市
—みとめあい ささえあう 肱川流域都市—

2013
No.102

7

大洲



きれいなお花がいっぱい

がんばる大洲っ子

今月の題字作成者

上須戒小学校5年（現：上須戒小学校6年）

山本 ^{かず} 一 ^ま 磨 さん



上須戒小学校には、運動会などの学校行事の時に、お互いに協力し合える友達がたくさんいます。全校児童は13人と少ないけれど、みんな仲良くサッカーや一輪車に乗ったりして遊んでいます。

今一番楽しみにしていることは、夏休みに「小学生交流事業」で滋賀県高島市へ行くことです。他校の友達をいっぱい作ることで、さる機会なので、今からわくわくしています。

今年は得意科目だけでなく、苦手科目も克服できるように勉強したいです。3年生の時から習い始めた習字も、ずっと続けていきたいと思っています。

僕の夢は薬剤師になって、病院で働くことです。そのためにも、モットーである「努力」を忘れずに頑張っていきたいです。

7月の納税など

納期限は7月31日(木)です

税 別	7月	8月	9月	10月
市 県 民 税		2期		3期
固 定 資 産 税	2期		3期	
軽 自 動 車 税				
国 民 健 康 保 険 税	1期	2期	3期	4期

市税などの納付は、便利で安心な「口座振替」を！

現在の大洲

	人の動き(先月比)	交通事故(昨年同期)
人口	47,147人 (-56)	件数 57件(87件)
男	22,436人 (-20)	死者 1人(1人)
女	24,711人 (-36)	負傷者 67人(99人)
世帯数	20,295世帯(-10)	

(2013年5月末現在)

CONTENTS 目次

2ページ	がんばる大洲っ子・今月の表紙
3ページ～	暑さ対策いつするの 今でしょう (特集)
8ページ～	シリーズ
11ページ	まちのわだい
12ページ～	おおずニュース
14ページ～	おしらせ
25ページ～	図書館・保健センター・ 心と体の健康ガイド
28ページ	がんばるひと (南久米歴史文化研究会)

今月の表紙

picture 写真



6月9日(日)、櫛生地区で開催された「櫛生しょうぶ祭り」取材しました。

市内外から多くの人々が訪れ、きれいに咲いたショウブを観賞していました。訪れた子どもたちは、雨にもかかわらず、園内を元気いっぱい走り回っていました。

暑さ対策いつするの



今でしょう

みなさんの思い描く「夏」のイメージは、どのようなものですか。「夏祭り」「海水浴」「花火」などいろいろあると思いますが、誰もが口にしてしまう「暑い」という言葉が、夏を最も象徴しているのではないかと思います。

最近では、市内の日中最高気温が、県内や全国で一番を記録することがあり、ニュースでも報道されることがあります。

大洲市だけでなく、全国でも日中の最高気温が35度以上の猛暑日を記録する日数が増え、昔と比べて気温が高くなっているような気がします。これらの気温上昇については、多くの人が地球温暖化という言葉をお口にします。

近年の気温上昇を温暖化と結びつけてしまうのは、短絡すぎるかもしれません。しかし、この100年間の統計によると、地球

の平均気温は0・74度上昇している、長期的に上昇傾向にあります。気温の上昇は、思いがけないところで、私たちにも影響を及ぼすことがあります。例えば日差しが強くと強く温度・湿度が上昇すると、熱中症や脱水症になる人が増えてきます。また、エアコンなどの使用に伴う排熱量の増加により、ヒートアイランド現象が発生しやすくなります。

地球環境や、私生活にまで影響を及ぼす「暑さ」。熱中症や脱水症を防ぎ、夏を少しでも過ごしやすいにするためには、暑さ対策が必ずです。

市内には、工夫次第でさまざまな「涼しさ」を発見できるところがたくさんあります。暑い夏に耐えるのではなく、夏を楽しく過ごすために、みなさんはどんな暑さ対策をしていますか。

今、地球が暑い

地球は、誕生しておよそ46億年と一般的にいわれています。この長い地球の歴史上、気候の温暖化や寒冷化は幾度も繰り返されてきたと考えられています。

1900年代後半に、ある学者の「暑い気象が地球温暖化と関係していることは99%正しい」という発言が、「地球温暖化による猛暑説」として報道され、地球温暖化説が一般に広まりました。

現在、地球の気候や海の平均温度の上昇ペースは、20世紀後半以降、加速している傾向にあると観測されています。

地球温暖化のメカニズム

そもそも地球温暖化は、どのようにして起こるのでしょうか。

地球には、太陽から膨大なエネルギーが光や熱などの形で届いていて、そのエネルギーによって地球は温められています。熱の多くは赤外線として宇宙空間に放出されますが、適度な温室効果ガスのおかげで大気温度がバランス良く保たれています。

温室効果ガスとは、二酸化炭素、フロン、メタンなど大気中の熱を吸収する性質をもつガスのことです。

この温室効果ガスが増えすぎると、宇宙空間に放出される熱が減り、大気温度は上昇することになります。

なかでも、温暖化に最も影響を及ぼす温室効果ガスが二酸化炭素です。

二酸化炭素の主な排出源は、人の産業活動だと言われています。産業革命以降、化石燃料（石炭、石油など）の大量使用は、大気中の二酸化炭素の濃度を急激に高める一因となりました。

二酸化炭素の最大の吸収源は海洋ですが、過剰な吸収などにより海水温が上昇しています。その他、森林面積が、違法伐採による農地開拓などで減少していることも、温暖化を助長する要因といわれています。

温暖化による影響

温暖化が地球に及ぼす最大の影響は、気温の上昇です。地球の平均気温は、今後も上昇すると考えられていて、あらゆる変化をもたらします。

気温の上昇により大気中の水蒸気量が増え、降水量が増える。局地的な豪雨や干ばつが増える。熱帯雨林の乾燥化や砂漠化が進む。氷床・氷河の融解および海水の膨張により、海面が上昇するなど挙げられます。

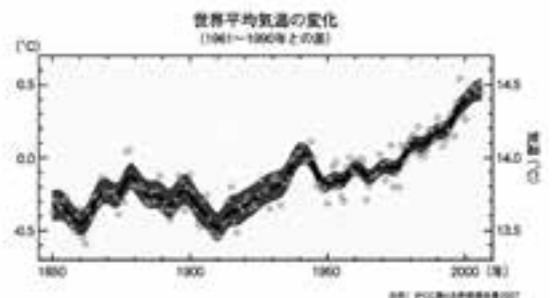
日本における影響は、気圧配置の変化により偏西風が蛇行し、異常気象が発生しやすくなる。勢力の強い台風が発生が増加し、各地で甚大な被害が発生する。猛暑日や熱帯夜が大幅に増える。熱帯地方特有の感染症（マラリア・ Dengue 熱など）が広まる可能性がある。東北地方以南では、雪ではなく雨の降る場合が増えるため、積雪量が減少するなどがあります。

これらは、現在のまま温室効果ガスを排出し続けた場合、100年後に予測される影響です。しかし、既に引き起こされているものもあり、遠い未来のことではありません。

地球は暑い、それとも寒いの

温暖化によって、南極圏と北極圏の水が全て溶けた場合、海水の塩分濃度が低下し、海流の循環が停止する可能性があります。万が一海流の循環が停止すると、暖流寒流の影響がなくなり地球規模で気温が低下し、氷河期に入るとの説もあります。

また、今の地球は、気温が上昇しているから温暖化だという説があれば、氷床があるから氷河期（寒冷化）であるという説もあり、現在の地球は微妙な時期にあると思われます。



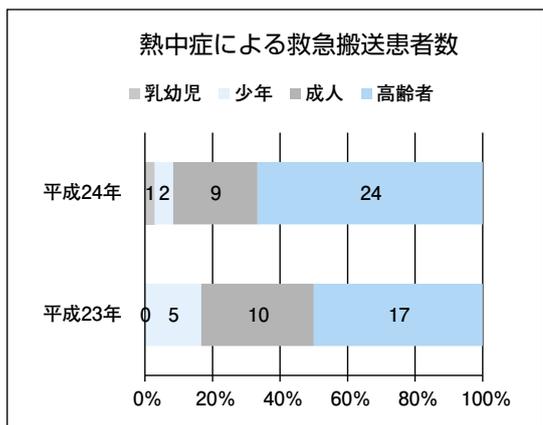
資料：全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト (<http://www.jccca.org/>) より

熱中症・脱水症

これからは温度・湿度が上昇する時期になり、熱中症や脱水症に注意が必要になります。

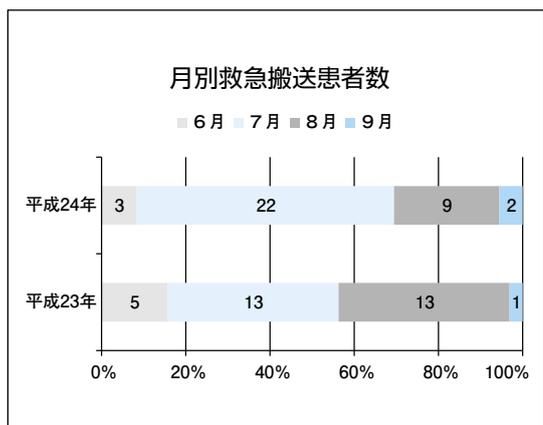
熱中症は、高温多湿の環境下で体内に熱がこもり、その熱を上手に発散することができなくなった状態です。熱中症になった時には、体内の水分や電解質が失われた状態、いわゆる脱水症にも同時になっていきます。

大洲消防署では、6月から9月までの間、熱中症による救急搬送患者数の統計をとっています。その統計によると、搬送された半数以上が高齢者で、7月に搬送された人が最多となっています。



また、年齢層によって、起こりやすい状況に違いが見られます。若年層では、屋外での運動や仕事により起こることが多くなっています。一方、高齢者では屋外の場合でも、散歩や買い物中などの日常生活の中や、屋内で起こることが多いようです。

高齢者は、体温調整機能の低下により、暑くても汗をかきにくく、汗の量も少なくなっています。また、暑いと皮膚の血流量が増え、体内の熱を逃がそうとしますが、高齢者の場合、皮膚の血流量が増えにくくなっています。そのため、暑さに対する反応が弱くなり、熱中症になりやすくなります。



大洲小学校
校長 岡田 ひろあつ 先生

「安全で安心して学べる学校」を目指して

大洲小学校では暑さ対策として、子どもたちが授業で育てているヘチマなどを活用した緑のカーテンや遮光ネットを設置し、直射日光を防ぐ工夫をしています。

なかでも子どもたちに好評なのは、昨年度より設置しているミストシャワーです。これには、霧状の水が体に付くことで、発汗させずに体感温度を下げる効果があります。また、水道の蛇口に直接取り付けるだけで、とても簡単に設置することができます。屋外活動を行う時には常に噴霧するようにして、子どもたちの安全を第一に考えています。その他の取り組みとしては、今

年度より、従来2学期に行っていた運動会を、暑さが厳しくなる前の1学期に行うようにしました。その結果、子どもたちは練習中に体調を崩すことも少なくなり、以前にも増して元氣よく運動会を楽しむことができたと思います。

大洲小学校では、夏の暑い時期だけでなく、普段から子どもたちの体調、健康管理に心がけています。これからも、学校、教育委員会、保護者、地域住民が連携を図りながら一丸となって、子どもたちの安全や健全育成などを進めていきたいと思っています。



大洲の自然の中で 涼をとろう

みなさんは、夏の暑い日に木陰へ入り一息ついている時、ふと吹いた風の気持ちよさに癒された経験はありませんか。

大洲市には、自然の涼しさを感じることができる場所がたくさんあります。同時にそこは、大自然の中でしか得られない体験が行える場所でもあります。



海で楽しむ

海上を吹き抜け髪をなびかせる潮風や、規則的に聞こえてくる波の音が、気持ちをリラックスさせてくれます。

海で楽しく涼をとる方法として、まず思い浮かぶものは海水浴ではないでしょうか。

川で楽しむ

例えば、長浜町にある海水浴場は、毎年多くの家族連れなどが訪れ、海に入って涼をとったり、砂浜で遊んだり、それぞれが楽しい時間を過ごせる場所です。

川面を吹き抜ける風は、陸上で吹く風と違った感じがします。

川の涼しみ方としては、カヌーでの川下りや、うかい、水遊びなどが挙げられます。

浅瀬で水遊びをして涼をとるのもいいですし、カヌーやうかいの場合、川の流れにまかせて景色を楽しみながら、一味違った涼しい風を感じることも、一つの風情であると思います。

山で楽しむ

山の中では、草木の香りを含んだ涼しい風を感じることができます。

山で涼しむ方法には、木漏れ日が差し込む森の中を散策することや、滝から生じる天然のミストを浴びることなどがあります。

また、都会では体験が難しい昆虫採取など、好奇心旺盛な子どもたちには貴重な経験ができる場所でもあります。



河辺中学校（1年生）
中津 優翔 さん

僕が住んでいるのは、河辺町内でも標高が高いところです。ここは夏でも涼しく、まるで天然のクーラーがあるみたいです。暑がりの僕でも、夜は網戸にするだけで気持ちよく眠ることができます。

河辺では夜、電気を点けておくだけでも、カブトムシやクワガタムシなどの昆虫がたくさん集まってきます。都

会では、カブトムシがデパートなどで売られているとテレビで知った時は、とてもびっくりしました。山に入れば、もっとたくさんの昆虫も捕れるので、機会があれば、都会の子どもたちにも案内してあげたいです。

山は涼しい風が吹いていて、とても気持ちがいいので、山の良さをもっとみんなに知ってもらいたいです。



夏を快適に過ごすために

現在、エアコンなどの電化製品の普及により、手軽に「涼しさ」を手に入れることができます。その反面、急激な温度変化に体がついていけず、体調を崩すことがあります。

体調管理や地球温暖化を考える上で、今まで紹介したもののほかにも、すだれで直射日光を遮るといった、日本の風土で培われた生活様式を取り入れてみるのも一つの方法ではないでしょうか。ぜひ、エコを意識しつつ、夏と上手に付き合ってみましょう。

大洲市には、海、川、山など自然の「涼しさ」を感じる環境がそろっています。それぞれ異なる魅力が詰まっているので、単に涼をとるだけでなく、その場所でのしか体験できない「楽しさ」も味わってみてください。

夏の暑さをただ我慢するのではなく、身近にあるものをうまく活用して、快適な「涼しさ」を見つけることも楽しみの一つです。

さあ、夏はすぐ目の前です。今年、いつもと違う夏の魅力を見つけてみませんか。